

《履修上の留意事項》 担当教員の都合により授業の順序を変更する場合は事前に通知する。
講義内容資料は適宜配付するため、授業中の録音、録画、写真撮影等は厳禁とする。

《担当者名》 教授 / 三浦 宏子 准教授 / 松岡 紘史 講師 / 水谷 博幸 講師 / 植原 治 助手 / 石原 匠 非常勤講師 / 廣瀬 仁美

【概要】

口腔の健康を保持・増進し、その疾病を予防するための自然科学的・社会的な知識及び技術を理解し、かつ、この問題の解決に必要な態度を養う。すなわち、歯科疾患の予防及び口腔の健康増進のための理論と技術を修得し、これを個人、家庭、さらに、地域社会から地球レベルの口腔保健にまで応用することができる基礎を学習することを目的とする。

【学修目標】

- 口腔疾患の特性、日本国民の歯科疾患罹患状況について説明する。
- 口腔の置かれた環境と歯口清掃の目的、方法について説明する。
- 齲蝕や歯周疾患の予防方法について説明する。
- 地域や職域の口腔保健医療問題について説明する。
- 歯科疾患を評価する方法について説明する。
- 個人、集団の両面から疾病予防、健康増進を図るための方略について説明する。
- 保健指導（健康教育）の方法について説明する。
- 地域や職場におけるヘルスプロモーション活動について説明する。
- 口臭の原因、予防法について説明する。
- 歯科心身症の原因、予防法について説明する。
- 歯科集団検診の意義、目的について説明する。
- 問題解決型授業で自分の考えをまとめ、討論し、その内容について説明する。
- 歯科的問題を衛生統計学的に解析し、その内容について説明する。
- EBMに基づく歯科疾患の予防について説明する。
- 歯科医療の専門家として知る必要のある社会保障制度について説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	序論、口腔衛生の意義 1. 口腔保健と予防歯科 2. 口腔保健の現状 3. 歯科疾患の特性 4. 口腔衛生の意義 5. 口腔健康増進対策 6. 歯科医師の任務	口腔衛生学、予防歯科学は国民の口腔の健康と増進をはかる科学と技術であることを理解する。 口腔保健の現状を知る。 口腔保健に関する予防の概念（第一次予防、第二次予防、第三次予防）を知る。 プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションの概念から口腔保健を理解する。 我が国の口腔健康増進対策を知る。 口腔保健に関わる歯科医師の任務を知る。 B-3-1)- 、B-3-2)-	三浦宏子
3) 8	口腔の環境 1. 口腔組織の発育と機能 2. 口腔の不潔物 a. ペリクル b. バイオフィルムとしてのデンタルプラーク c. 歯石 d. 舌苔 e. 歯の沈着物 3. 唾液の作用 4. Stephan曲線	歯とその周囲組織の発育と機能について知る。 齲蝕、歯周病は口腔常在菌による感染症であることを理解する。 デンタルプラーク、歯石の形成機序を知る。 デンタルプラークをバイオフィルムの一つとして理解する。 デンタルプラーク、歯石の病原性を知る。 舌苔の組成、口臭との関連について知る。 歯に付着する外因性、内因性沈着物について知る。 唾液の作用を知る。 Stephan曲線を理解する。 B-3-1)- 、B-3-2)-	植原 治
9) 10	歯口清掃 1. 歯口清掃の目的と意義 2. 歯口清掃法	歯口清掃の目的と意義を知る。 歯口清掃の方法を知る。 歯口清掃によるプラークコントロール効果と限界に	植原 治

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	3. 歯口清掃とプラークコントロール 4. 歯磨剤 5. 歯口清掃指導	ついて知る。 歯磨剤の種類、基本成分、薬効成分を知る。 口腔保健指導の一環としての歯口清掃指導法について知る。 B-3-1)- 、 B-3-2)-	
11) 14	齲蝕の予防 1. 齲蝕の概念 2. 齲蝕の病因論 3. 齲蝕の発生要因(宿主要因、病原要因、食生活要因、環境要因、時間的要因) 4. 齲蝕リスク検査 5. 代用甘味料 6. 口腔保健指導	齲蝕の概念を知る。 齲蝕の病因論についての歴史的背景を知る。 齲蝕の発生要因(宿主要因、病原要因、食生活要因、環境要因、時間的要因)を理解する。 口腔の健康格差と社会的決定要因について理解する。 齲蝕リスク検査の目的と内容を知る。 代用甘味料の種類と効用を知る。 口腔保健指導の内容を理解する。 B-3-1)- 、 B-3-2)-	植原 治
15) 16	フッ化物の応用 1. フッ化物による齲蝕予防 a. 全身応用 b. 局所応用 2. フッ化物の代謝 3. 急性中毒と慢性中毒	フッ化物の齲蝕予防に関する意義を知る。 フッ化物応用の歴史を知る。 齲蝕予防に関するフッ化物の作用機序を知る。 フッ化物の応用方法(フッ化物歯面塗布、食品への添加、錠剤、フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口、歯磨剤への配合)とその予防効果について知る。 摂取されたフッ化物の代謝を知る。 フッ化物による急性中毒、慢性中毒について知り、その対処方法を理解する。 B-3-1)- 、 B-3-2)-	植原 治
17) 18	歯周疾患の予防 1. 歯周病の定義、分類、特徴 2. 歯周病の発生要因、発生機序 3. 歯周病を修飾する因子 4. 歯周病の全身への影響	歯周病の定義、分類、特徴について理解する。 歯周病の発生要因、発生機序を知る。 歯周病を修飾する因子を知る。 歯周病の全身への影響、全身疾患の歯周病への影響を理解する。 B-3-1)- 、 B-3-2)-	植原 治
19	口臭の予防 1. 口臭の定義、分類 2. 口臭の原因 3. 口臭の検査法 4. 口臭の予防 5. 口臭への保健指導、健康教育	口臭の定義と分類を知る。 口臭の原因を知る。 口臭の検査法について知る。 口臭を予防ために口腔環境の改善や、全身疾患のコントロールの重要性を知る。 B-3-1)- 、 B-3-2)-	松岡紘史
20) 21	口腔の健康と全身の健康 1. 全身疾患と口腔疾患 2. 生活習慣と口腔疾患	全身の健康と口腔の健康との関わりについて知る。 食事、喫煙、飲酒、ストレスなどのライフスタイルが口腔保健と関連することを知る。 糖尿病、循環器疾患、メタボリックシンドローム、呼吸器系疾患などと口腔疾患との関わりについて知る。 B-1-	三浦宏子
22) 23	行動科学と口腔保健指導、健康教育 1. 行動科学理論 2. 保健指導 3. 健康教育 4. ヘルスリテラシー	行動科学理論を理解する。 保健指導と健康教育を区別して理解する。 指導型健康教育と学習援助型健康教育の特徴を理解する。 ヘルスリテラシーを知る。 B-3-2)-	松岡紘史
24	禁煙指導・支援	タバコ使用への介入の背景について、喫煙の健康への影響、禁煙介入を行う理由、歯科で禁煙を行う理由について理解する。 禁煙支援・指導の実施について理解する。 F-3-2)-	松岡紘史
25) 28	歯科疾患の指標 1. 歯科疾患の疫学的特性 2. 齲蝕の指標 3. 歯周疾患の指標	口腔の健康状態を把握するには疫学的な調査が必要であることを知る。 口腔の健康状態を把握、評価するための方法(齲蝕の指標、歯周疾患の指標、口腔清掃状態の指標など)	水谷博幸

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	4. 口腔清掃状態の指標 5. 歯のフッ素症の指標 6. 不正咬合の指標	を知る。 B-4-2)-	
29) 30	地域歯科口腔保健 1. 地域歯科口腔保健の概念 2. 地域歯科口腔保健関連法規 3. 地域歯科口腔保健活動 4. 生涯を通じた地域歯科口腔保健	生活圏における住民主体のサービスとしての地域歯科口腔保健を理解する。 健康増進法、歯科口腔保健法を理解する。 科学的根拠に基づいた地域歯科口腔保健活動とPDCAサイクルの重要性を知る。 生涯を通じた地域歯科口腔保健の重要性を知る。	三浦宏子
31) 32	母子歯科口腔保健 1. 母子歯科口腔保健の意義 2. 妊産婦の口腔保健 3. 乳幼児の口腔保健 4. 1歳6か月児歯科健康診査 5. 3歳児歯科健康診査 6. 児童虐待と歯科医療	母子歯科口腔保健の意義を知る。 妊産婦の口腔の変化を知り、口腔保健指導を考える。 乳幼児の口腔の変化を知り、口腔保健指導を考える。 1歳6か月児および3歳児の歯科健康診査の意義と実施内容について知る。 歯科医療関係者として児童虐待の発見が可能であることを知る。	水谷博幸
33) 34	中間試験		三浦宏子 松岡紘史 水谷博幸 植原 治
35) 36	学校歯科口腔保健 1. 学校歯科口腔保健の意義 2. 学校歯科口腔保健の現状 3. 学校歯科医の職務 4. 歯・口腔の健康診断 5. 健康相談、保健指導、事後措置	学校歯科口腔保健の意義を知る。 学校歯科口腔保健の現状を知る。 学校歯科医の職務、役割を知る。 歯・口腔の健康診断の意義と目的を知る。 健康相談、保健指導、事後措置を知る。	水谷博幸
37) 38	問題解決型授業（PBL） 1. グループ学習 2. プレゼンテーション	小グループに分かれ、口腔衛生的状況を例に、問題点の抽出、解決策などを調べ、考察し、発表する。 A-2-1)-	三浦宏子 松岡紘史 水谷博幸 植原 治
39	産業歯科口腔保健	産業歯科口腔保健の意義を知る。 職場における口腔保健活動を知る。 口腔にみられる職業性疾患を知る。	三浦宏子
40	高齢者歯科口腔保健	高齢社会における歯科医師の役割を学ぶ。 高齢者、有病者のニーズを知る。 口腔ケアの重要性について知る。 B-2-2)-	三浦宏子
41	国際口腔保健・震災時口腔保健	世界の口腔保健状況を知る。 途上国における歯科医療協力を知る。 世界の口腔保健目標を知る。 災害時の歯科の役割を知る。 災害時における地域歯科保健体制を知る。	三浦宏子
42	歯科心身症 1. 歯科心身症の分類 2. 歯科心身症の診断 3. 歯科心身症の治療	歯科心身症の内容を理解する。 歯科心身症への対処法について知る。 B-1-	松岡紘史
43) 44	歯科疾患実態調査 1. 平成28年度の調査 2. 健康日本21（第二次）の目標値との関連	国の統計調査における歯科疾患実態調査の位置づけを知る。 平成28年度に行われた歯科疾患実態調査の概要、日本人の口腔保健状況を知る。 健康日本21（第二次）の目標値との関連を知る。	三浦宏子
45) 46	齲蝕リスク検査実習	口腔の健康や歯科疾患予防の概念をより具体的に理解、習得するために、第一次予防における口腔のヘルスチェックや歯科疾患に対する感受性または活動性の測定とその評価方法について実習を行う。	三浦宏子 松岡紘史 水谷博幸 植原 治

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		B-3-2)-	石原 匠 廣瀬仁美
47) 48	PCR実習	口腔の健康や歯科疾患予防の概念をより具体的に理解、習得するために、第一次予防における口腔のヘルスチェックや歯科疾患に対する感受性または活動性の測定とその評価方法について実習を行う。 B-3-2)-	三浦宏子 松岡紘史 水谷博幸 植原 治 石原 匠 廣瀬仁美
49) 50	口腔内診査実習	口腔の健康や歯科疾患予防の概念をより具体的に理解、習得するために、第一次予防における口腔のヘルスチェックや歯科疾患に対する感受性または活動性の測定とその評価方法について実習を行う。 B-3-2)-	三浦宏子 松岡紘史 水谷博幸 植原 治 石原 匠 廣瀬仁美
51) 52	歯科衛生統計実習	疫学指標の意味を理解し、計算方法を理解する。 疫学研究に必要となる統計学的考え方を理解し、計算方法を体験する。 B-4-2)-	松岡紘史
53	EBMとオーダーメイドヘルスケア 1. EBM (Evidence Based Medicine) 2. 自由裁量権と自己決定権 3. NBM (Narrative Based Medicine)	EBMに基づく予防を行うためのアセスメントを知る。 EBMとインフォームドコンセントの関連を知る。 自由裁量権と自己決定権を知る。 個人の生活背景や人格、価値観に合わせたヘルスケアを考える。 NBM (Narrative Based Medicine) を知る。 B-4-1)-	松岡紘史
54) 55	社会保障制度1 1. 社会保険 2. 公的扶助 3. 社会福祉 4. 児童福祉	社会保障制度を理解する。 社会保険（年金、雇用、労働災害、医療、介護）の制度と根拠法を知る。 公的扶助（生活ほご制度）と根拠法を知る。 応益負担と応能負担を知る。 社会福祉、児童福祉を知る。 B-2-2)-	三浦宏子
56	社会保障制度2 1. 介護保険の仕組み 2. 介護保険の財源 3. 保険者、被保険者 4. 要介護認定 5. 在宅サービス・施設サービス 6. 介護保険施設 7. 地域包括支援センター 8. 地域包括ケアシステム	医療と介護の違いを知る。 介護保険の仕組み、財源を知る。 在宅サービス・施設サービスの内容を理解する。 介護保険施設への対処を考える。 地域包括支援センターのスタッフと役割を知る。 地域包括ケアシステムの要素、意義を知る。 B-2-2)-	三浦宏子
57) 58	保健教育実習	対象者の知識レベルにあわせた視聴覚媒体を作成する。 B-3-2)-	三浦宏子 松岡紘史 水谷博幸 植原 治
59) 60	まとめ	講義内容の総復習	三浦宏子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

[講義の評価方法] 中間試験（20%）、定期試験（70%）、レポート（10%）、

[判定法] 前期、後期でそれぞれ60点以上を合格とする。

【教科書】

「口腔保健・予防歯科学」安井ら 編 医歯薬出版
口腔衛生学実習書

【参考書】

「国民衛生の動向」厚生統計協会

【学修の準備】

講義内容に関して、指定した教科書の該当ページを事前に読んでおく(30分)。

学ぶ範囲が広く、前回の講義に関わるポストテストを行うことがあるので、授業後に30分程度の復習をする。

- ・小テストは実施後解説を行う。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1:人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を修得するために、衛生学・公衆衛生学を学修する(高度な専門的知識と実践能力)。

DP3:疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるように生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を学修する。

DP4:歯科医療の専門家として、地域的、国際的視野で活躍できる能力を学修する。

【実務経験】

三浦 宏子(歯科医師)、松岡 紘史(公認心理師)、水谷 博幸(歯科医師)、植原 治(歯科医師)、石原 匠(歯科医師)、廣瀬仁美(歯科医師)

【実務経験を活かした教育内容】

口腔衛生学は、個人の健康のみならず、地域社会、国際社会全体に寄与する科目であり、学理に則った教育内容と実務経験を背景とした経験談が対をなすことで優れた教育成果が期待できる内容となっている。